

## エコロジカルな回心 —すべてのいのちを守るため—

諫早修道院 浅田美加子

第14回総会報告書には「エコロジカルな回心」について、わかりやすくまとめられている。78ページに「**私たちはエコロジカルな回心に励みながら、個人と共同体レベルで生活様式を見直します。神から与えられたいのちや環境を守り、正義と愛と平和の実現を目指します**」(ラウダート・シ 216～227)と書かれているので、私はこの箇所を重点的に読み、黙想した。

(ラウダート・シ 220)で教皇様は「**エコロジカルな回心は各信者が、神からそれぞれ授かった固有の能力を伸ばすことを通して、世界の諸問題を解決し、神に喜ばれる聖なる生けるいけにえとして(ローマ12-1)自分を捧げることができるよう、豊かな創造性と熱意を注ぎます**」と教えている。

共同体には、しばしば教会の信徒の方々から野菜類などたくさんいただく。各自の菜園で出来た大きく立派な野菜を惜しげもなく贈り物としてくださる。(今年は800gのきゅうりがありました)新鮮で味が良く神様の恵みいっぱいのプレゼントを使って献立を変更し、ありがたく感謝していただいている。

その例を紹介する。大きな大根でつけもの、干し大根そして最後には風邪薬まで作った。サラダ菜、じゃがいもを使ってお好み焼きにしたり、きゅうりの佃煮(レシピ付き)たくさんの苺は美味しいジャムに、キンカンの実は甘露煮やマーマレードにした。

いただいたものを保存する方法も学んだ。レタスやキャベツは根元をV字型に切り取り、そこに水を含ませた吸い取り紙をつめてそれを下にしてビニール袋で保管すると3か月位も使用できた。

共同体としては、幼稚園の土地を部分借用して、写真の通りの収穫物があり、ミサの行き帰りに眺めては楽しんでいる。(きゅうり、ピーマン、ナス、オクラなど…)



(ラウダート・シ 227)で教皇様は、エコロジカルな回心に導く祈りとして「食前食後の祈り」を唱えるよう強くすすめている。この祈りは短くわずかな時間であっても「わたしたちのいのちが神の手の中にある事を思い起こさせ、被造物という贈り物への感謝の思いを強め、それを提供してくれる人々の労働をありがたく思い、困窮の極みにある人々との連帯を再確認する時なのです」と教えている。これを読んで思い出したのは、ある聖書学者の本に、(マリア様はユダヤ教の信者として、朝の起床の時の祈り、衣服を着用する祈り、仕事の開始・終わる時の祈り、と一日中祈りを捧げていた)という一文があったことだ。

これからもマリア様のように祈っていきたいと思っている。「オナジを生きる一聖母とともに」回心の道は目に見えないことが多くあるが、これからも教皇様のご意向に心を合わせて純心聖母会の会員として、少しずつ前進できるよう願っている。